

平城宮跡資料館



平城京の春夏秋冬

ナント！  
すてきな！?  
平城生活♪

平成29年度 夏のこども展示

奈良時代の  
ゆりかごがら  
はがばまで

2017.7.22 sat - 9.3 sun

セレブとサラリーマン

平城京の  
あさがらよる



## はじめに

平城京の推定人口は5万～10万人。  
当時としては、日本唯一の大都市だったんだ。

平城宮で働く役人とその家族が多かったけれど、  
宮や貴族のやしきなどでの下働きの人々、  
京にものを運んできたり、兵士や職人として集められたりして、  
全国各地からやってきた人々、  
京内のお寺のお坊さん・尼さん、それに海を渡ってきた外国の人々など、  
いろいろな人がくらしていた。

このうち、平城宮などではたく役人は約1万人。

この企画展の主人公、  
“となりさま”と“やかまろさん”も役人だ。



へいじょうライフ  
平城生活 はじまり はじまり

とよなりさま  
(54さい)



しごと

やくにん やしろ しょうに い うだいじん ゆい じか  
とてもえらいお役人。位は、正二位。右大臣という職にある政治家。

すまい

さきょうにじょうにばう いちじょうにばう  
おじいさん（左京二条二坊・一條二坊）、おじさん（左京二条二坊）、おとう  
じじこう やしき ていたく ソウザイ サンジウ  
と（左京四条二坊）のお屋敷（邸宅）の近くにあったと想像して、左京三条三  
坊にあり、広さは4町だったとしておきましょう。ここは、馬に乗って、壬生  
つうじん べんり  
門まで数分という通勤にとても便利なところです。

しがらききよう いしやまぢ タテモノ けんきゅう  
また、とよなりさまが紫香楽京から石山寺に寄付した建物が研究されていて、  
約284m<sup>2</sup>（86坪）という大きな建物が復元されています。平城京でも大きな建  
物をもっていたことでしょう。このほか、難波に別荘をもっていました。

かぞく

じ むしょひん  
3人の奥さんと3男1女の子供がいました。そのほか、おおぜいの事務職員や  
しひん す ケヅ すづくにん  
職人が通ったり住みこんでいたりしました。その数は数百人。

おかね

きゅうりょう げんばい かね おこ まんえん そうとう こゆ の え  
給料として、1年間に現在のお金で1億2500万円に相当する米や布などを得て  
かくち のじょう しなもの とど きよなない しょくでん  
いました。また、各地の農場からさまざまな品物が届いたほか、京内に商店を持  
持ち、いろいろな品物を売って、もうけていたようです。

政治家でもあり、経営者でもあり、到底までもってる…!  
まさにセレブ中のセレブ!!



やくにん やしき  
えらい役人の屋敷  
ひろい土地に建物がたち並びます。



しゃつび どき  
えらい役人の屋敷から出土した土器  
大きなうつわがたくさん出土します。

もんじょばこ  
文書箱

やしき じもし  
お屋敷のなかの事務所で書かれた  
しょもい ここ  
書類を入れる箱です。

やかまろさん  
(54さい)



## しごと

おひみょうじょりよう やくしょ つと りょうさん やくにん  
陰陽寮 いとううきょう いとう いとう まろ ち まろ たけののり ち まろ  
そのいとううきょうといのう役所に勤める、非常勤の役人。  
位は、少初位上。職は、つかいぱしりの史生。

## すまい

と は へいじゆうきょう こいち じ かん きょう みのみ もか うきょうはぢょう す  
徒歩で平城宮まで小一時間かかる京の南はしにも近い、右京八条に住んでいま  
した。ここでは、1坪を堀や溝で、いくつもの宅地に区切っていました。

やかまろさんの宅地の広さは1/32町(約500m<sup>2</sup>)。そこには、板葺きや草葺きの  
簡単な建物数棟、井戸1基がみられ、あき地には菜園がありました。

## かぞく

このあたりには1世帯5~10人の家族が住んだと考えられているので、8人家族  
だったとしておきましょう。

## おかね

らの くわ しょじょう  
年2回もらう布や銀、月々の食料、国から与えられた田んぼからとれる米など  
を足すと、1年で230万円ぐらいになるかな? ちょっとたりないので、写経所  
にお経を書くアルバイトに出ています。庭には家庭菜園があり、とれた野菜を  
食事などのたしにしたほか、余分なものを市で売っていました。

ふつうのサラリーマン

コマもない、お金もない、家もせまい…。  
バイトもござす、ふつうのサラリーマン



やくにん いえ  
ふつうの役人の家

こまかく区切ったせまい土地にたくさんの建物と  
井戸、それに家庭菜園がみられます。



ふつうの役人の家から出土したもの

にだら しゃくじ どきと  
煮炊きや食事につかう土器と  
菜園でつかうスコップ(鍤)がみられます。

しつちょうさんからひとこと

とよなりさまのモデルは、藤原不比等の孫で、藤原式智麻呂の長男、藤原豐成(704-766)。

やかまろさんのモデルは、木齋にちらりとあらわれる高麗達家麻呂(生没年未詳)。

二人とも詳しいことはわからないので、ほとんど想像しました。



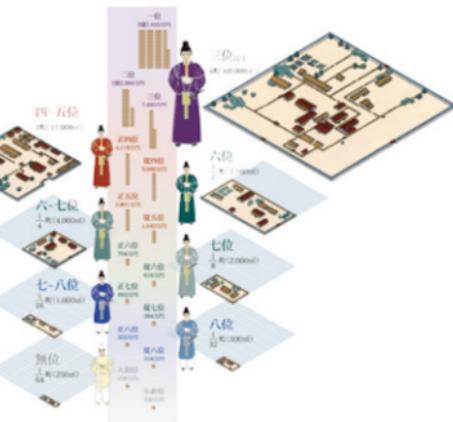
平城京は、大路に囲まれた大きな区画「坊」を、東西3本、南北3本の小路で16の小さな区画「坪」に分けておった。この1坪の広さが1町（15,000m<sup>2</sup>：甲子園球場は13,000m<sup>2</sup>）。

わしのように、べいべいの役人の宅地は、徒歩で平城宮まで一小時間かかる南の八条や九条などに多かったんだよ。宅地1つの広さは1/16町（約1,000m<sup>2</sup>）や1/32町（約500m<sup>2</sup>）。

一方、とよなりさまのように、えらい人には、五条より北の平城宮に近いところに、1町以上の広い宅地が与えられることが多かったよ。とよなりさまの弟の宅地は、8町（120,000m<sup>2</sup>）という広さだったんじゃよ！ 堀で囲まれた宅地内には、大小多くの建物が建ち並び、池なんかもあったんだよ。



あんなかんじだ。



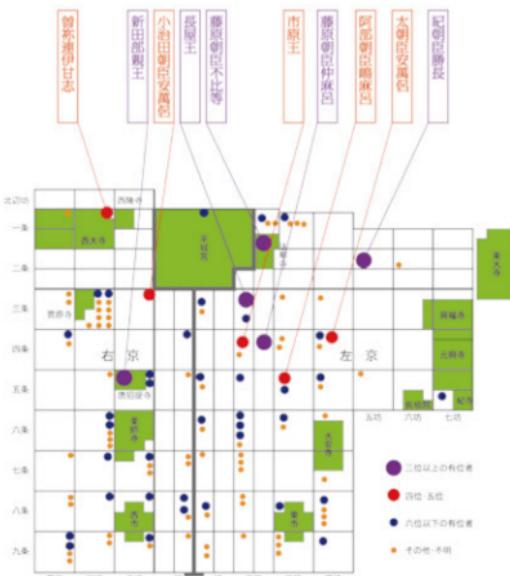
### 役人の居住地のおおよそ広さと年収

奈良時代の役人は、とてもえらい「正一位」から、わしのよう一番下っぽの「少初位」まで30段階に分かれた位をもっていて、給料として、その位ごとに決まった量の布や綿、鐵などの品々を年二回、月料とよばれる米と塩などの食料を毎月いただいている。それに、農民をおなじく、6才以上の人みんなにあたえられる田んぼ（口分田）をもっており、そこからとれる米も收入になつておった。こうしたものらう、実際につかつた分の残りを京内の市で売って、お金にしていたんじゃよ。

六位以上の人は、位に応じた広さの田んぼが特別に与えられ、そこからの米を收入にできたり、もっとえらい、とよなりさまのような三位以上のお役人には、戸が与えられ、その戸が納める税も收入にできたんじゃ。

これらを現在のお金でいくらぐらいになったと思う？

奈良文化財研究所が計算したところ、正一位は3億1400万円！ 少初位のわしは、たった230万円ほど。わしらべいべいは、借金やら写経所でのアルバイトなど、大変だったんじゃ。



# お役人コーディネート (朝服バージョン)

Court uniforms



身分によって着る色が  
きまっていた。



色によって小物使いを  
変えるのがポイント。



## 平城京24時間

平城京では、  
一辰刻しんごく(2時間)ごとに太鼓たいこ、  
一刻こく(30分)ごとに鐘をならして  
人々に時をしらせていました。

また、日の出・日の入りなど、  
おひさまの動きをしらす太鼓もならされました。  
このほか、お寺も1日6回の修行の際に鐘をならしていました。

人々は、こうした、鐘や太鼓の音をきいて、  
時間をしり、それをもとにして、1日を過ごしていました。



奈良市役所所蔵平城京復元模型

はなのみやこ“平城京”

# とよなりさまの一日

## 起床

夜明けの三刻前（1時間半前）に起床。朝起きると、昨日の日記をつけます。その後、かるい朝ごはんをとり、朝のしたく。



発掘された、とよなりさまの仕事場

(朝堂院東第一堂)

## お仕事

第二次大極殿の朝堂院の指定席に各役所の長官や次官が着き、朝堂院南門が開くことをしらす太鼓（第二開門鼓）が響くと、係が呼びに来ます。朝堂院に入ると、おしゃべり禁止。おもむろに朝堂院東第一堂に行って、自分の席に着くと、出勤が確認され、お仕事が始まります。国を勤かす、まつりごと。とても重大なお仕事です。各役所から上がってくる報告を聞き、指示を出したり、太政大臣、左大臣などと会議。とても重要なことは、大極殿にいらした天皇に会って、相談します。



東院庭園でのひととき

(早川和子さん画)

## 帰宅

いつもなら、お屋の太鼓を聞いたら、帰宅しますが、この日は東院庭園でお呼ばれ。ちょっと楽しんじゃいました。

結局、この日は、申時（午後3時ごろ）帰宅。

## 自宅にて

宅内の正殿で、帰りを待っていた家の事務局長と、とよなり家のやりくりなどを相談。今年の米のできなどの報告もありました。

夜は、奥さんたちの住む建物で家族と晚餐。食事後は、琴の音を聞きながら、奥さんと碁を楽しみました。



こよじ  
移柱

ことえんそう  
琴の演奏に使います。

楽器はふつうの人の家からは出土しません。



とよなりさまのディナー



家族との夕食

(早川和子さん画)

# やかまるさんの一日

## 起床

今日は出勤日。夜明けの二刻前(1時間前)には起床して、朝のしたく。



## 出勤

夜明けを告げる太鼓の音を聞くやいなや家を出発。夏至の今頃は朝の4時半ごろです。

徒歩で平城宮まで出勤。八条からは、小一時間ぐらいかかりますが、勤務始まりの太鼓までに、届け出している宮門をとおって、宮内に入らないといけません。宮門を通るときに、しっかりと出勤を確認されています。



## お仕事

遅刻せずに、仕事場の陰陽寮になんとか着きました。ほっとするまもなく、仕事開始の太鼓(第二開門鼓)! なんといっても、下っばの史生なので、上司が作った木簡をよその役所にもっていったり、備品管理をしたり。なんやかんやで大変です。そんな仕事時間中での楽しみが役所の食堂での朝の給食。味が薄かったりすると、大膳職に苦情を入れます。

やかまるさんの仕事風景  
(早川和子さん画)



## 帰宅

午後の仕事や宿直の時もありますが、今日は、お屋の太鼓を聞いたら、いちもくさん。一目散に家に帰ります。なぜなら、お手伝いさんと売るものをもって、西市に行くからです。そこで屋台を出して、鉄と布、庭でとれた青菜を売り、今度は、そのお金で、奥さんに言われた調味料の末薑や塩、魚の干物を買います。日没の太鼓が鳴ると、市や京内の門がしまってしまうので、さっさとすませます。



## 自宅にて

夕方、家に帰ると、家族で食事です。あしたは休みなので、お酒をちょっと飲みすぎちゃいました。いい気持ちで、食後は、子供たちと土器のすごろくを楽しみました。



やかまるさんちの晩ごはん



すごろく土器

ある日の市  
(早川和子さん画)

時間は、わしがつとめている陰陽寮という役所が漏刻や日時計で測っていたんだよ。



みず どけい ろうこく  
水時計「漏刻」

しつちょうさんからのひとこと  
陰陽寮が時間を測るのに使っていた「漏刻」と  
よばれる水時計。飛鳥時代の漏刻をあいた施設  
が明日香村の水落遺跡で発見されたんだ。  
それをもとに復元したのが、これだ。



平城宮・京では、時刻をしらせる鐘や太鼓のほか、日出と宮・京内の門の開門を知らせる太鼓(第一開門鼓:日出の15~20分前)、大門(朝堂院南門)の開門と始業をしらせる太鼓(第二開門鼓:第一開門鼓の約1時間後)、昼(太陽が真南に来るとき)と大門閉門、退勤時間を使らせる太鼓(退朝鼓)、日没と宮・京内の門の閉門をしらせる太鼓(閉門鼓:日没の15~20分後)がならされていました。

たいがいの役人は、第一開門鼓が出勤の合図となり、第二開門鼓にまでには宮内の仕事場に着いていなければならなかつたんです。とよなりさまのようなえらい役人の仕事はお昼まで。でも、やかまろさんのような下っはは、交代で午後の仕事や夜勤もしなければなりませんでした。

日没の太鼓と日の出の太鼓の間は、京内に設けられた門も閉じられて外出できませんでした。夜遊びも×。ものを売ったり、買ったりするに大切な市は、お昼の太鼓で門をあけ、日没の太鼓とともに門を閉じました。

このほか、お寺で1日6回つく修行の鐘の音のうち、中夜(午後10時)の鐘を就寝時間と感じていました。

一日 = 十二辰刻 (一辰刻 = 今の2時間)

一辰刻 = 四刻 (一刻 = 30分)、

一刻 = 十分 (一分 = 3分) と決められていたんだ。

辰刻は、時と呼ばれ、子時(今の午後11時~午前1時)から

亥時(午後9時~11時)まで十二支が付けられていたよ。

また、刻については、点といっていたよ。

「――問題!!――

「卯二点三分」は

| 今何時何分でしょう?

| わかるかな?

――――――――――――



\*ある各気候5種類の工事



当時のカギ



奈良時代の一日

## 平城カレンダー みやこびとの春夏秋冬

奈良時代には、中国の唐の暦が使われていました。

それは、月の満ち欠けをもとにする“太陰暦”。

太陽の動きを基準にする現在の暦(太陽暦)とは1か月ほどずれています。

この時代、具注暦という今までいうカレンダーもありました。

正月元日などの大切な儀式が定められるとともに、  
いまのお盆や正月、バレンタインデーやクリスマスなどのような

月ごとや季節ごとの年中行事があり、

四季の移り変わりを楽しんだことでしょう。



カレンダーをみながらお仕事  
(早川和子さん画)

# 春

元日(ひつ)の朝賀(さよこ)  
(正月元日)

白馬節会(しらませつゑ)(正月七日)

踏歌節会(とうかせつゑ)(正月十四、十五、十六日)

大射(だいしゃ)(正月中旬)

上巳節会(じょうひせつゑ)(曲水宴)(三月三日)

若菜つみ



元日の朝賀(一月一日)  
(早川和子さん画)



白馬節の馬はこんなかざり馬?(一月七日)



朝賀に使われた隼人の幡



上巳節会(曲水宴)(三月三日)



上巳節会(曲水宴)(三月三日)  
(早川和子さん画)

春は、さまざまな重要な行事が集中します。

1年のはじまりだからでしょうか。

そんななか、野原にいて、若菜をつむるのは、ほっとするひと時です。

若菜は粥に入れていただきます。

七草がゆにつながります。

# 夏

五 月 ご も ん ち  
端午節会(五月五日)

おひな祭り

大祓(六月)

田植え(五月)

夏に檜扇を天皇が下賜



天皇からの夏のおりもの 檜扇



## 五月五日のたんごのせちまつり

菖蒲の獻上、やぶさめ、競馬、サーカス、樂器演奏がおこなわれました。

また、五月には、田植えのための休暇がありました。

六月には、半年に一度の大祓。

ひら役人から皇太子まで、役人一同、

壬生門前あたりで人形を流して、

身と心だけでなく、京内全体を清めます。

## 夏らしい行事として、平安時代には、

「衛府が作って納めた檜扇を天皇が群臣に配る」というすばやかな儀式がありました。

平城宮東方官衛地区では、

衛府に関わるゴミ穴から14個体もの檜扇が出土し、

奈良時代にも同様な儀式があったことが推測されています。

しょうぶ

そして、やっぱり夏バテにはうなぎですね。

# 秋

七夕節会(七月七日・八日)

盂蘭盆会(七月十三、十四、十五日)

稻刈り(八月)



七夕の日には、七夕の詩を作って詠むといった

優雅なならわしがありましたが、

なんと、この日には相撲もおこなわれました！

全国から力自慢のお相撲さんが集められました。

そして、奈良時代にもお盆はあり、

ナスやウリなどの野菜が先祖の靈にささげられました。

また、稻刈りのため、八月に休暇がありました。

具注暦  
とは？



具注暦は、陰陽暦が毎年つくるカレンダーです。上下2巻で1年分でした。

巻頭にその年の一年の長さや、月の大小のほかに、歳の吉凶が書かれているほか、各月には日の干支、二十八宿、曜日、二十四節気、七十二候、日の出入り時刻、その日の吉凶が記されています。書き写した巻物が各地に配られたほか、これを板に書き写して掲示する場合もあったようです。

# 冬

にいなめさい そよみかわのじき 大  
新嘗祭・豊明節会(十一月)

おとねりすけ  
鎮魂祭(十一月)

おおはらえ  
大祓(十二月)

おひるぬき  
追儺(十二月大晦日)



鎮魂祭につかった琴形と矛形(十一月)



おおはらえ  
年末の大祓(十二月)

冬も行事が多いです。

一年の終わりであり、太陽の力が落ちる季節とみられていたからでしょう。

にいなめさい しょくうかく かんしゃ  
新嘗祭は収穫を感謝するおまつりで勤労感謝の日につながり、

ついな おに せつぶん  
追儺は、鬼を追い出す行事で、今の節分にあたります。

じゆや かな  
一方、まだ、除夜の鐘はなかったようです。



おおみそかは“鬼は外！”

にげる鬼



おひはらえおおはらえ方祖氏  
(四つ目です!)

『国史大系第二十八巻 政事要略』より引用

はか  
ゆりかごからお墓まで  
いっしょ  
—みやこびとの一生—

とよなりさまや、やかまろさんは、どんな一生をおくったのでしょうか？

いがい  
これが意外とわかりません。  
そうぞうじょく  
想像力をたくましくして復元してみました。



レゴとどうぐ  
役人の仕事道具

# とよなりさまの一生

よじわらきょう  
藤原京で生まれました。

7才 家族で藤原京から平城京へ引っ越し。

16才 大学に入学。

20才 正六位下で就職・お役所デビュー。 このころ第1夫人と結婚。

21才 従五位下

長男誕生

24才 次男誕生

26才 三男誕生 この前に第2夫人と結婚。

29才 従五位上

34才 正五位上

父と叔父さん3人が伝染病で病死。家を継ぐ。

じし い い さ ぎ ひ う じ ま う  
従四位下 参議、兵部卿

36才 正四位下

40才 従三位 中納言

44才 長女誕生 この前に第3夫人と結婚。

45才 従二位、大納言

46才 右大臣

54才 正二位

61才 従一位

62才 病気でなくなりました。

きゅうりょう  
京北方の丘陵に葬られました。

おとうさんが  
セレブだと…



じん しの  
隠位の制

むすこも  
セレブ…!!



とよなりくん20さい

みどりのふく  
(えみとこのおぼっちゃん)



きかく  
銀のかざりがついたベルト(皮帶)  
えらい役人のものです。

むらさきのふく  
(むっちゃせレブ)



やじょつけ  
わたしは、お役所勤めをする前に大学寮に入りました。  
ここは、貴族の子どもたちが学ぶ学校です。孔子様の教え  
である儒教を政治に生かす勉強をしました。本当は入らな  
くてもよかったんですけども、父が学長（大学頭）をした  
こともあり、入るようすすめられました。20才には宮中  
で天皇に仕える内舎人となり、21才には、すでに、貴族と  
される五位でした。あとはどんどん拍子に出世しました。  
こうした貴族がとくする制度を隠位の制といいます。

# やかまろさんの一生

さいろのふく  
(コマなし一般サラリーマン)

お父さんのさとの河内国古市郡(今の大阪府羽曳野市)で生まれました。

7才 平城遷都にともない、お父さんに呼ばれ、お母さんと平城京にお引っ越し。でも、大きくなるまで、平城京と田舎を行ったり来たりしてました。



29才 無位から役人人生をスタート。

このころ結婚。のちに3人ほど子供もできました。

45才 なかなか芽が出ず、やっと少初位下。正式の位につきました。

51才 ツヅがつかめて、少初位上に昇級。

57才 大初位下に昇級できましたが、長年の無理がたたり、病気がちに。

60才 なくなりました。

お墓は?????



役人の机

うすいあおいのふく  
(やっと昇級した一般サラリーマン)



病気の時などにも用いました。

銅のかざりがついたベルト(皮帶)

ふつうの役人のものです。

すっかり  
年をとってしまった…



やくしょつと  
25才のときに役所勤めをはじめましたが、おしの  
ような下っぱ役人のむすこは、なかなかえらくなれ  
ないんじゅ。昇進のチャンスは、6~8年に1回。  
しごとの成績をみられ、その期間、毎年連続して、  
中以上を取らなければ、昇進できないしくみじゅ。  
少初位上になったのは、51才の時。いやはや。



きんじ りょうてい もっせん  
勤務評定の木板

モデルとなった高屋達家麻呂の成績表



古くから、こどもが生まれると、胎衣壺を家の入口などに埋める習慣がありました。

古代の胎衣壺は、壺に胎衣(後産・胎盤)：おかあさんにきていてみて)と、男の子であれば、役人のシンボルである刀子(木簡を削るナイフ)・筆・墨、女の子のときは、裁縫道具

の針や糸を、神様への捧げものとされる銅鏡と納めました。

生まれた子どもがすくすく成長し、役人として立身出世することや、お裁縫がじょうずになることを願ったものとされています。いなかで生まれたやかまろさんはともかく、となりさまが生まれた時、そして、二人にこどもが生まれたときにも胎衣壺が埋められたことでしょう。



祝符木簡

病気をおいはらう呪文が書かれています。

### しつちょうさんからのひとこと

奈良時代には、男子は15才(女子は13才)以上で結婚できました。

平均寿命は、30~35才と考えられています。ただ、戸籍などをみると、

けっこう、お年寄りもみられます。おさない子どもの死亡率が高かったのです。奈良時代には、何回か伝染病がはやって、たくさんの人がなくなりました。とよなりさまのおとうさんやおじさんが同時に亡くなつたのも伝染病が原因です。

病気になった時、漢方薬や薬酒などもありましたが、よくやられたのはおまじない。効いたかどうかはわかりません。



平城京内には、お墓はつくれませんでしたので、京外の北、東、西の丘陵にお墓が造られています。

火葬した骨を土器などに納めて埋めたものがよくみられます。貴族などは墓誌と一緒に埋めている例があります。ただ、お墓をつくるのは、とよなりさまのような貴族が多いようです。火葬するのにもけっこう費用がかかりますから。一方、やかまろさんなどのえらくない人々がどうしていたかは、実はよくわかつていません。



平安時代初頭のえらい役人のお墓



えらい役人(太安万侖)の墓誌  
名前や住所などが書かれています。



えらい役人のお墓は京のまわりの岡や山につくられました。

## おわりに

はく（ぐらうりき　しょもつ　じんあゆう）  
発掘調査や書物の研究をもとに、  
いにち　いわん　いわしりう  
となりさま、やかまろさんの一日、一年、一生をみてきました。

はなのみやこ平城京の生活はどうだったでしょうか？

「へえー、こんなだったのか」とか、  
「いまの私たちの生活とよく似ているところ、ぜんぜんちがうところがあったな」とか、  
はたまた、「まだまだ分からぬことが多いんだな」という感想もあることでしょう。

かん　てんらんかい　だいせいこう  
いろいろ感じてもらえれば、今回の展覧会は大成功です。



平成29年度 平城宮跡資料館 夏のこども展示  
『ナント！ すてきな！？ 平城生活♪』  
発行日 2017年7月22日  
発行 独立行政法人 国立文化財機構  
奈良文化財研究所  
〒630-8577 奈良市佐紀町247-1(仮設庁舎)  
<http://www.nabunken.go.jp/heijo/museum/>  
企画編集 奈良文化財研究所 企画調整部 展示企画室  
デザイン・イラスト 廣瀬智子  
印刷 能登印刷株式会社